

Ⅱ 調査結果の概要

1 入込観光客の概況

(1) 入込観光客数

① 平成17年の入込観光客数

入込観光客数 4,344万人 (前年比 +10.4%)

平成17年の入込観光客数は、4,344万人で、平成16年と比べて408万人(10.4%)、平成15年と比べて449万人(11.5%)増加した。

全県的な増要因としては、大型観光キャンペーン実施の効果、新しくオープンした呉市海事歴史科学館(大和ミュージアム)や映画「男たちの大和」ロケセットが人気を博したこと、娯楽施設を併設した大型商業施設の設置などが挙げられる。

② 入込観光客数の推移(表1, 図-1)

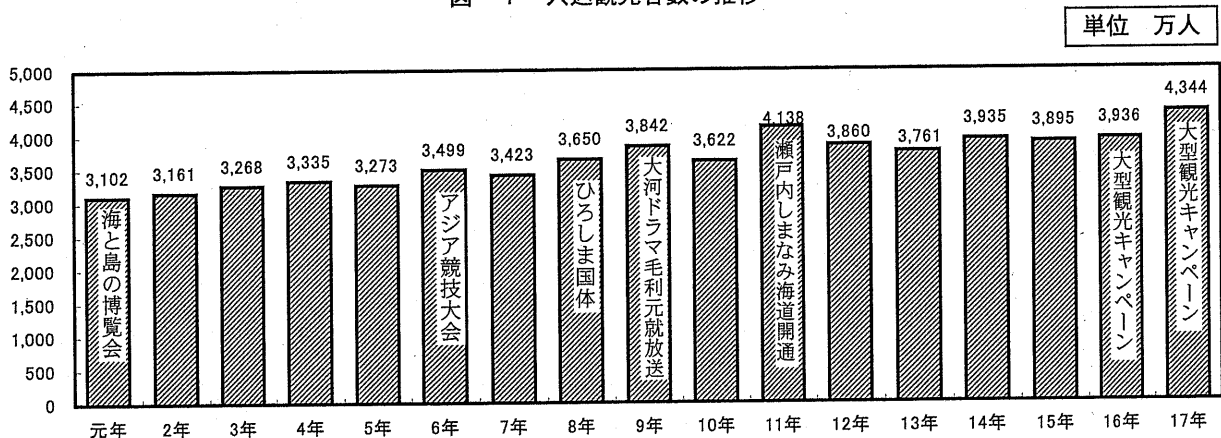
平成元年以降の本県の入込観光客数は、「海と島の博覧会」が開催された平成元年に3,000万人を超えた以降は順調に推移し、「瀬戸内しまなみ海道」が開通した平成11年には4,000万人を上回った。平成17年はこれまでの最高の入込観光客数となった。

表-1 入込観光客数の推移

(単位 万人, %)

区分	元年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年
入込観光客数	3,102	3,161	3,268	3,335	3,273	3,499	3,423	3,650	3,842	3,622	4,138	3,860	3,761	3,935	3,895	3,936	4,344
対前年比	110.7	101.9	103.4	102.1	98.1	106.9	97.8	106.6	105.3	94.3	114.2	93.3	97.4	104.6	99.0	101.1	110.4
元年基準の指数	100.0	101.9	105.4	107.5	105.5	112.8	110.3	117.7	123.9	116.8	133.4	124.4	121.2	126.9	125.6	126.9	140.0

図-1 入込観光客数の推移



(2) 地域別入込観光客の状況

① 市町別入込観光客の状況 (図-2)

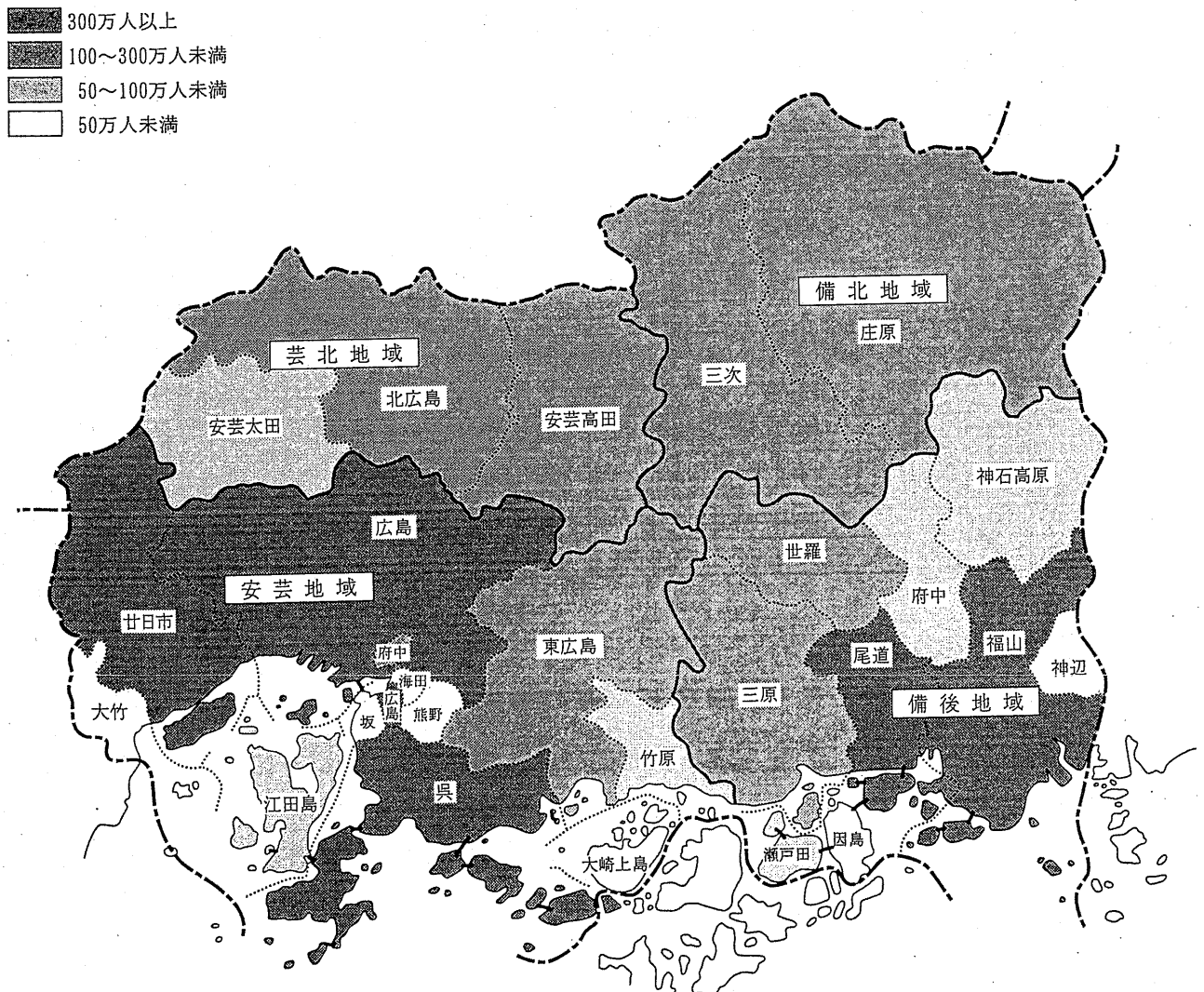
300万人以上	5市 (広島市, 廿日市市, 尾道市, 福山市, 呉市)
100~300万人未満	8市町 (庄原市, 北広島町, 三次市, 安芸高田市, 世羅町, 三原市, 東広島市, 府中町)
50~100万人未満	6市町 (安芸太田町, 府中市, 瀬戸田町, 神石高原町, 竹原市, 江田島市)
50万人未満	7市町 (因島市, 坂町, 大竹市, 神辺町, 熊野町, 大崎上島町, 海田町)

市町別に入込観光客数を見ると、広島市、廿日市市、尾道市、福山市、呉市などの瀬戸内海沿岸地域を中心に、入込観光客が多いことがわかる。

なお、前年に比べて入込観光客数が同程度あるいは増加した市町は20、減少した市町は6である。

図-2 入込観光客の市町別状況 (平成17年)

平成17年12月31日現在



② 市町別入込観光客の状況

市町別の入込観光客数の上位10市町は、次のとおりである。

		対前年比				対前年比	
1位	広島市	1,013万人	(+3.8%)	6位	庄原市	221万人	(+2.9%)
2位	廿日市市	467万人	(+3.2%)	7位	北広島町	164万人	(+9.1%)
3位	尾道市	388万人	(+33.0%)	8位	三次市	163万人	(-0.3%)
4位	福山市	376万人	(+3.9%)	9位	安芸高田市	155万人	(+6.5%)
5位	呉市	345万人	(+51.8%)	10位	世羅町	127万人	(+1.7%)

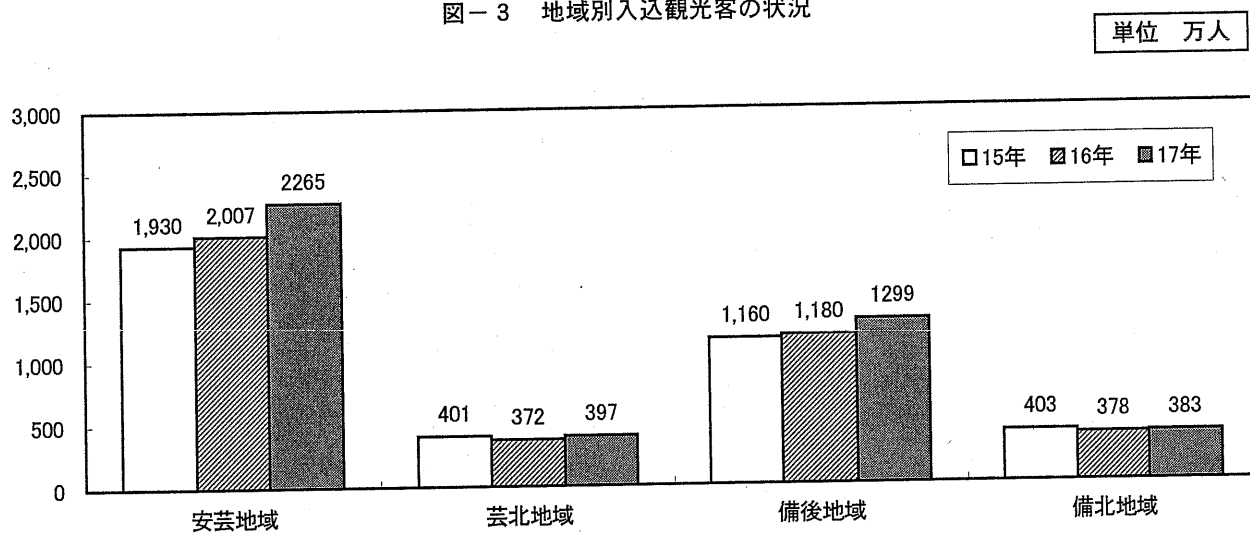
全般的に大型観光キャンペーン効果によって、ほとんどの市町で増加している。

その他の要因では、広島市では被爆60周年記念行事の実施などによって37万人増の1,013万人、尾道市は「男たちの大和ロケセット」の公開などによって96万人増の388万人、呉市は「呉市海事歴史科学館」がオープンしたことなどにより118万人増の345万人となっている。また、県北ではスキー客の増加が要因と考えられる。

③ 地域別入込観光客の状況(図-3)

地域別では、安芸地域は258万人(12.9%)、芸北地域は25万人(6.7%)、備後地域は119万人(10.1%)、備北地域は5万人(1.3%)増加し、4地域すべてで増加となった。

図-3 地域別入込観光客の状況

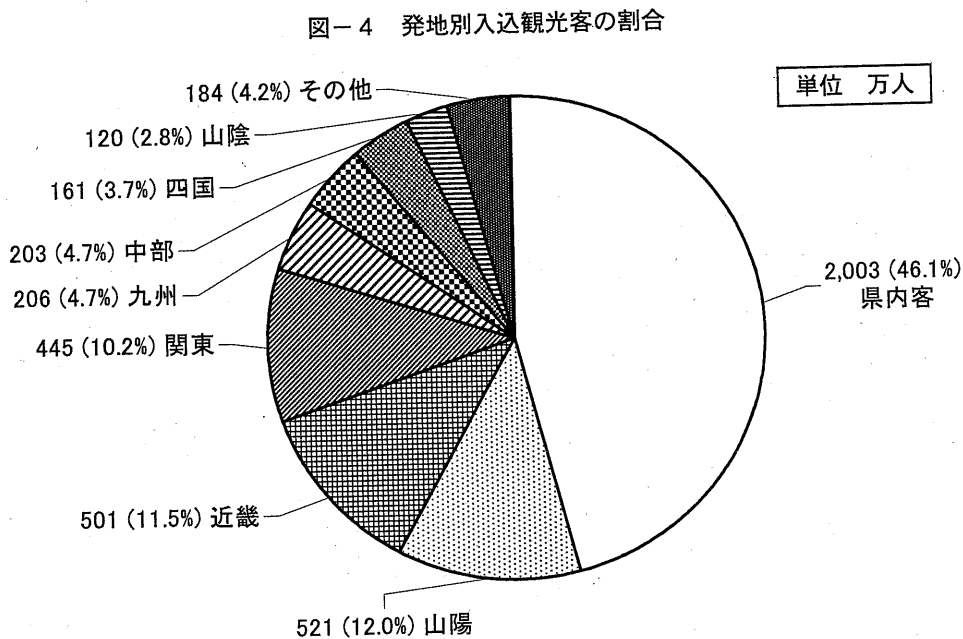


(3) 発地別入込観光客の状況 (図-4)

① 県内・県外観光客

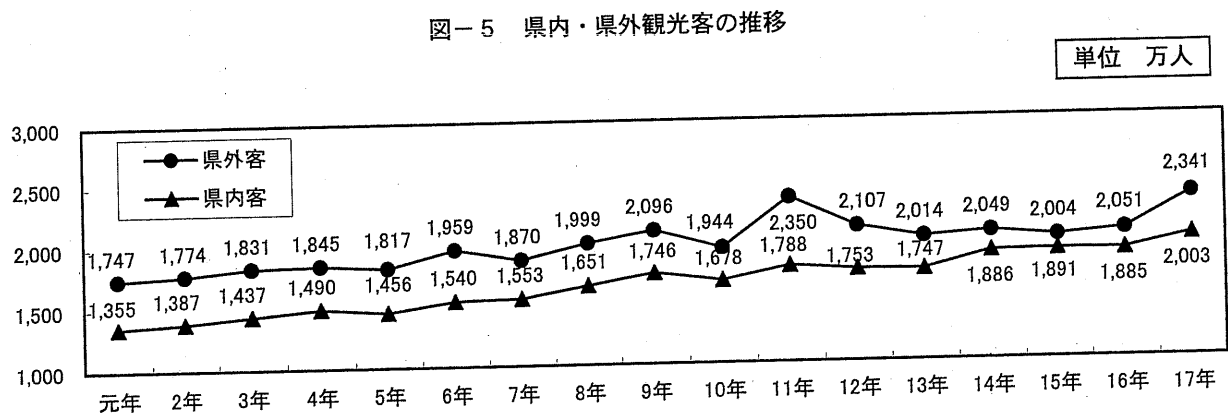
県内観光客数	2,003万人	(前年比 +6.3%)
県外観光客数	2,341万人	(前年比 +14.1%)

全体の入込観光客数に占める発地別の割合は、県内観光客が46.1%であり、県外観光客は「山陽地域」12.0%、「近畿地域」11.5%、「関東地域」10.2%、「九州地域」4.7%、「中部地域」4.7%、「四国地域」3.7%、「山陰地域」2.8%の順になっている。



② 県内・県外観光客の推移 (図-5)

県外観光客数は平成11年以降、7年連続で2,000万人を超えている。また、県内観光客数もはじめて2,000万人を超えた。



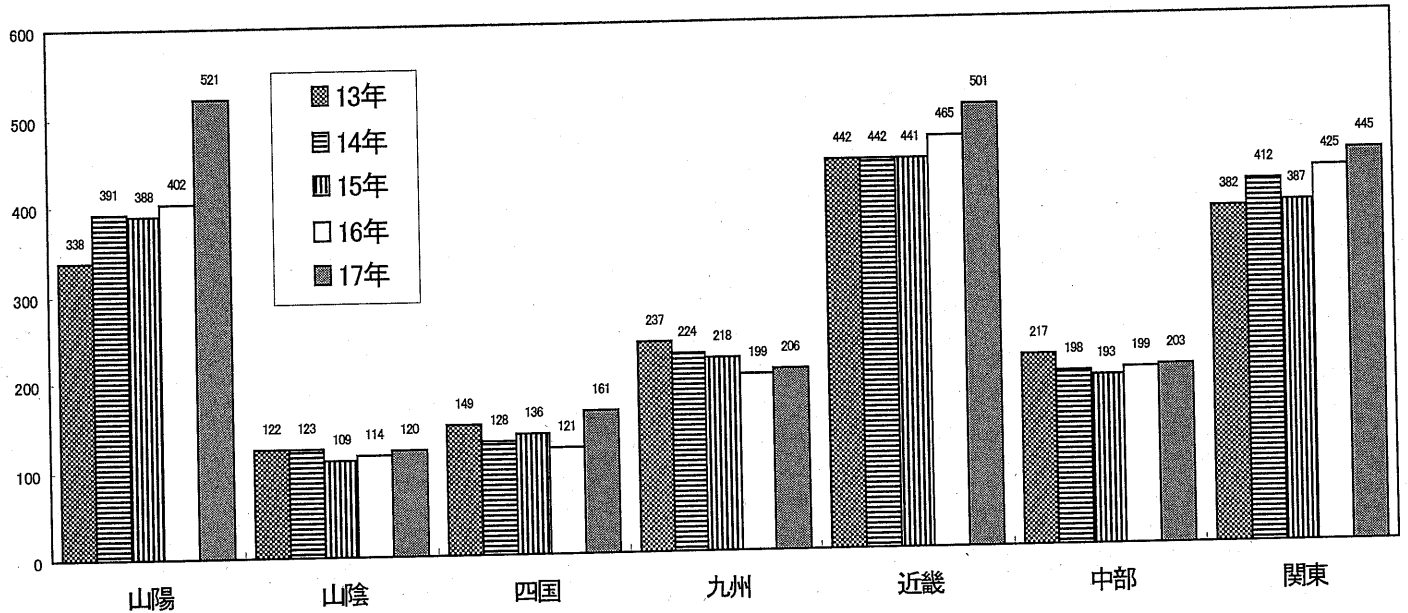
③ 県外観光客の主な発地別状況（図-6）

来県する観光客の多い地域は、「山陽地域」521万人、「近畿地域」501万人、「関東地域」445万人の順である。

前年と比べた場合、「山陽地域」からは119万人、「近畿地域」からは36万人、「関東地域」からは20万人の増加となっており、すべての地域からの入込観光客が増加している。

図-6 主な発地別県外観光客の推移

単位 万人

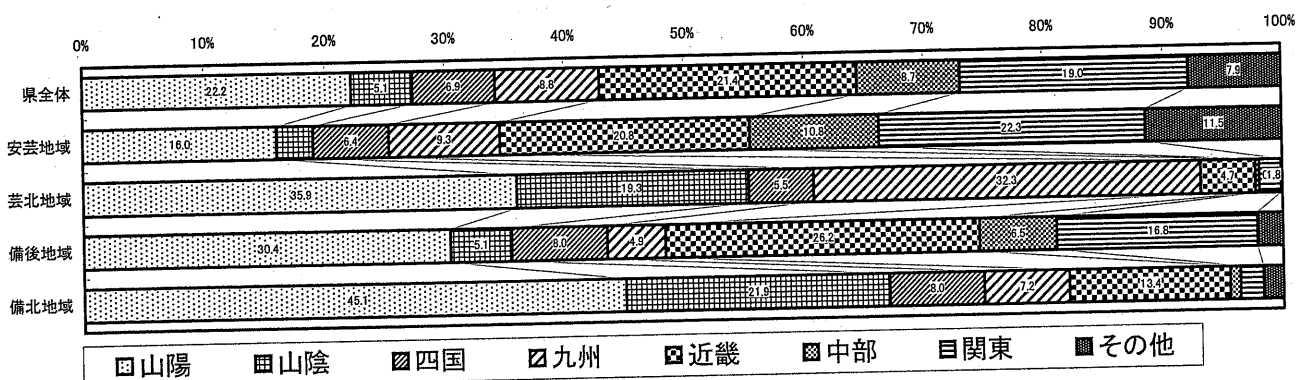


④ 地域別発地別県外観光客の状況（図-7）

安芸地域は「関東、近畿地域」など大都市圏からの観光客が高い割合を占めている。また、芸北地域は「山陽、九州地域」から、備後地域は「山陽、近畿地域」から、備北地域は「山陽」といった近県からの観光客が高い割合を占めている。

図-7 県内各地域への県外観光客の発地別割合

単位 %

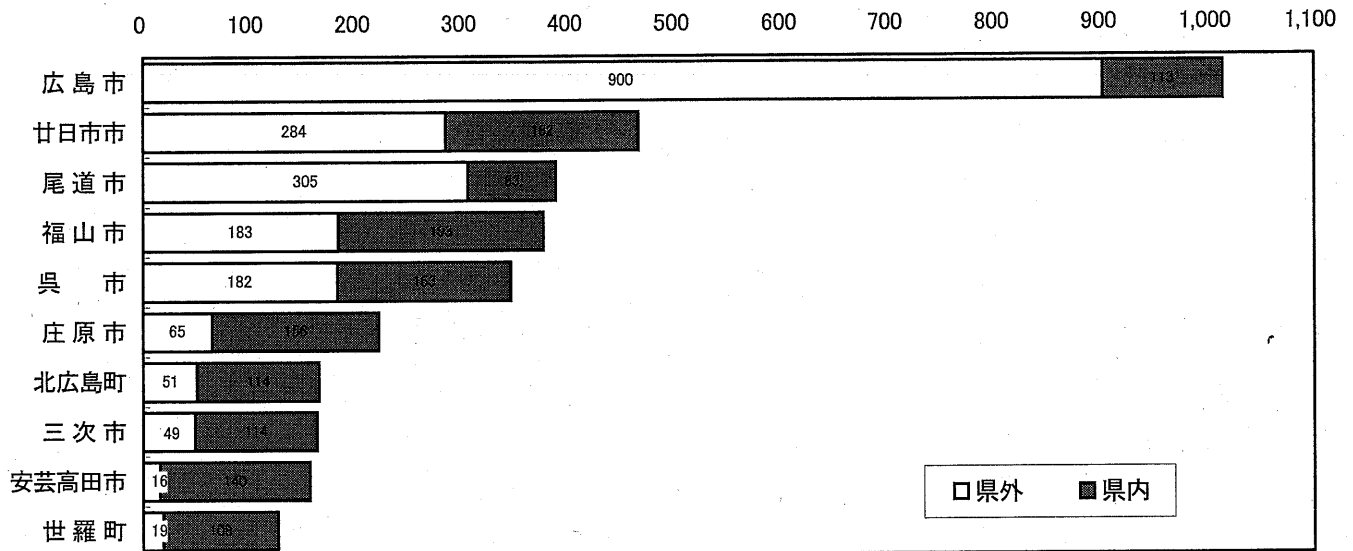


⑤ 主要観光地への県内・県外別入込観光客の状況 (図-8)

入込観光客数の上位10観光地のうち、県外客の比率が県全体の53.9%を上回っているのは、広島市(88.8%)、廿日市市(60.9%)、尾道市(78.6%)の3市であった。

図-8 主要観光地への県内・県外別入込観光客数

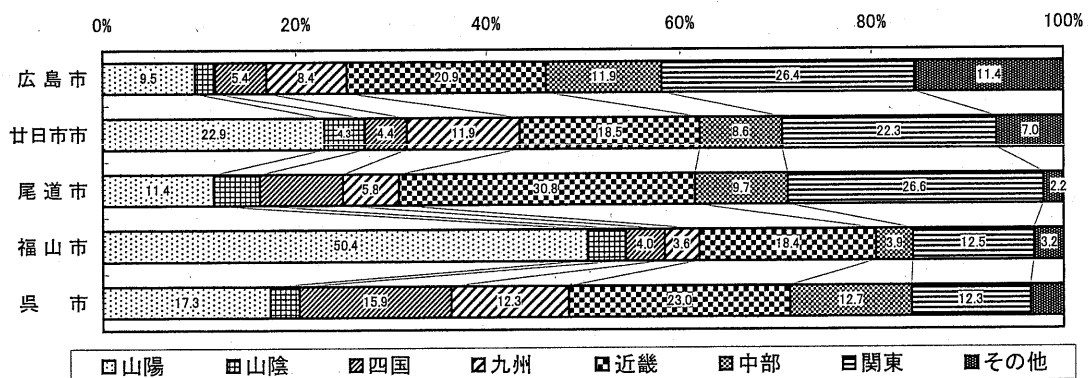
単位 %



⑥ 主要観光地への県外観光客の発地別状況 (図-9)

県外からの入込観光客数の上位5観光地別に見ると、広島市、尾道市については「関東、近畿地域」の大都市圏から、福山市については「山陽地域」など近隣地域からの観光客が高い割合を占めている。

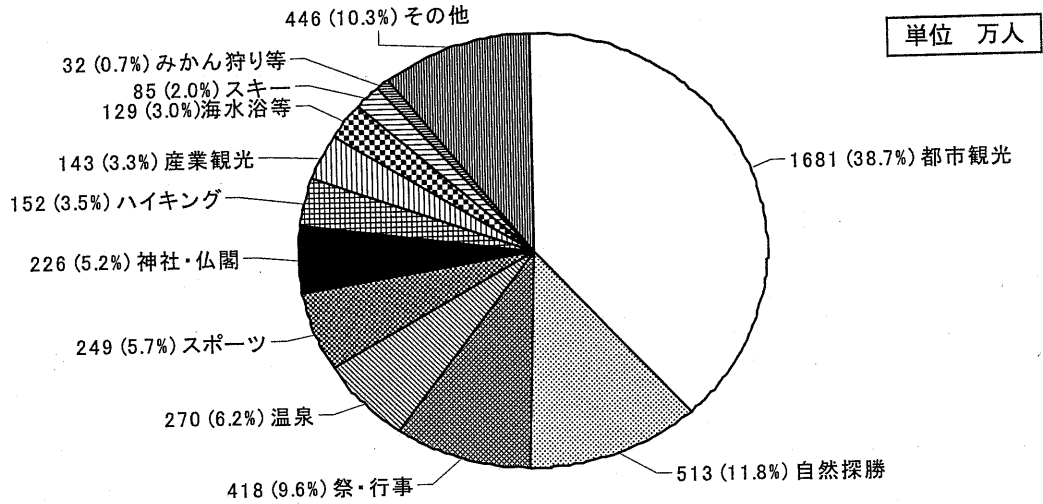
図-9 主要観光地への県外観光客の発地別割合



(4) 目的別入込観光客の状況 (図-10・11)

目的別では、「都市観光」が38.7%と最も高く、次いで「自然探勝」の11.8%、「祭・行事」の9.6%となっている。

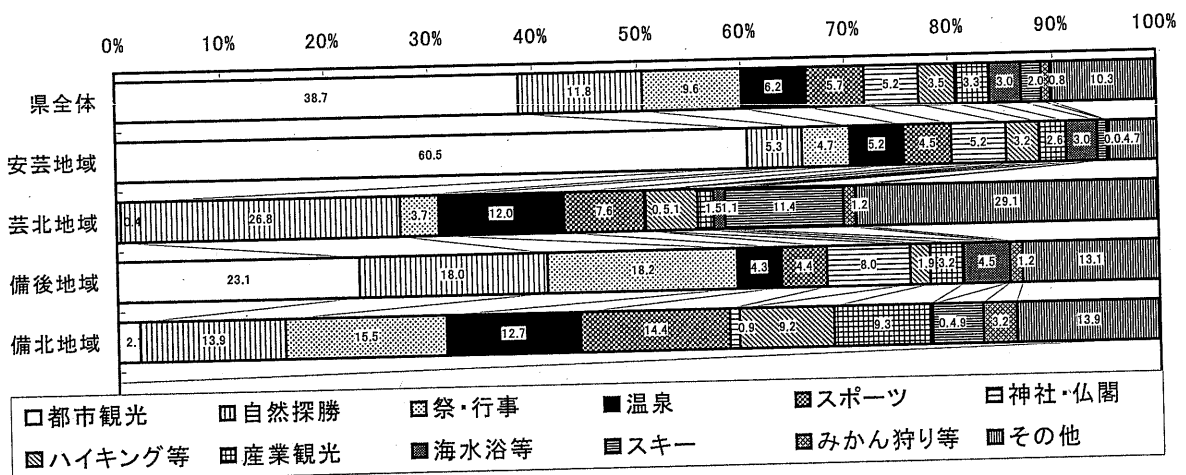
図-10 目的別入込観光客割合



(注) 都市観光：都市を見たり，都市で学ぶことを目的としたもの
産業観光：工場見学，特産品づくりを目的としたもの

次に、地域別に目的別観光客の割合を見ると、安芸地域では「都市観光」、芸北地域では「自然探勝」が高い割合となり、備後地域では「都市観光」、「祭・行事」及び「自然探勝」、備北地域では「祭・行事」、「スポーツ」、「自然探勝」、「温泉」がほぼ同率となっている。

図-11 地域別目的別入込観光客の割合

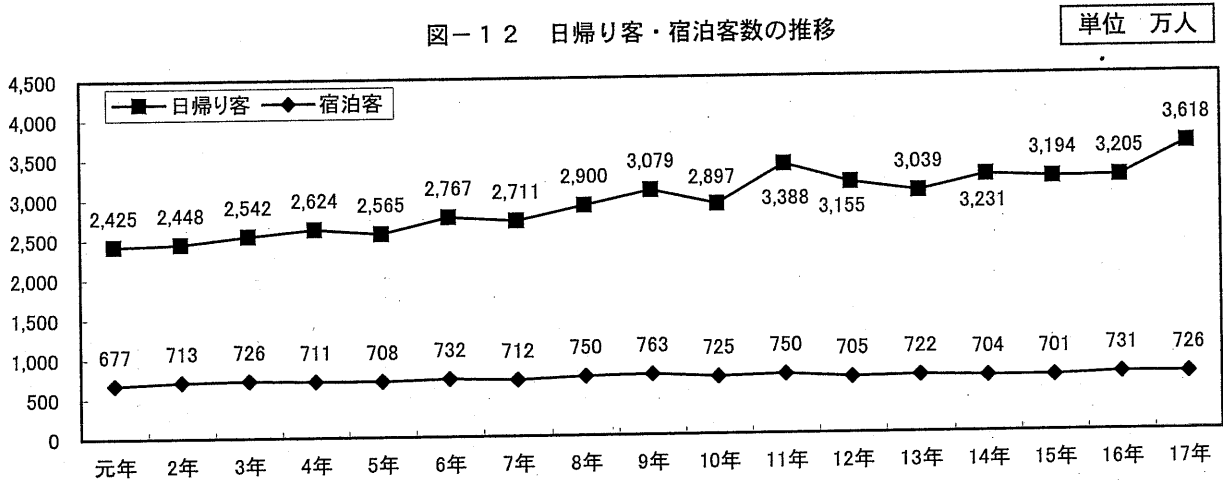


(5) 旅行形態別入込観光客の状況

① 日帰り客・宿泊客の状況 (図-12)

入込観光客のうち日帰り客数は3,618万人で、前年と比べると413万人(12.9%)増加している。

また、宿泊客数は前年に比べて5万人(△0.7%)減少し、726万人となっている。



② 地域別日帰り客・宿泊客の状況 (表-2)

地域別にみると、日帰り客については、平成16年と比べて全ての地域で増加しており、特に安芸地域、備後地域が大幅に増加している。

また、宿泊客については、平成16年と比べて安芸地域では増加しているが、芸北地域及び備後地域では減少している。

表-2 地域別日帰り客・宿泊客の推移

(単位 万人, %)

区分	日 帰 り 客					宿 泊 客				
	平成15年	平成16年	平成17年	対15年 増減率	対16年 増減率	平成15年	平成16年	平成17年	対15年 増減率	対16年 増減率
安芸地域	1,486	1,531	1,786	20.2	16.7	444	476	478	7.7	0.4
芸北地域	383	352	379	△1.0	7.7	19	20	19	0.0	△5.0
備後地域	981	998	1,124	14.6	12.6	179	181	175	△2.2	△3.3
備北地域	344	324	329	△4.4	1.5	59	54	54	△8.5	0.0
広島県全体	3,194	3,205	3,618	13.3	12.9	701	731	726	3.6	△0.7

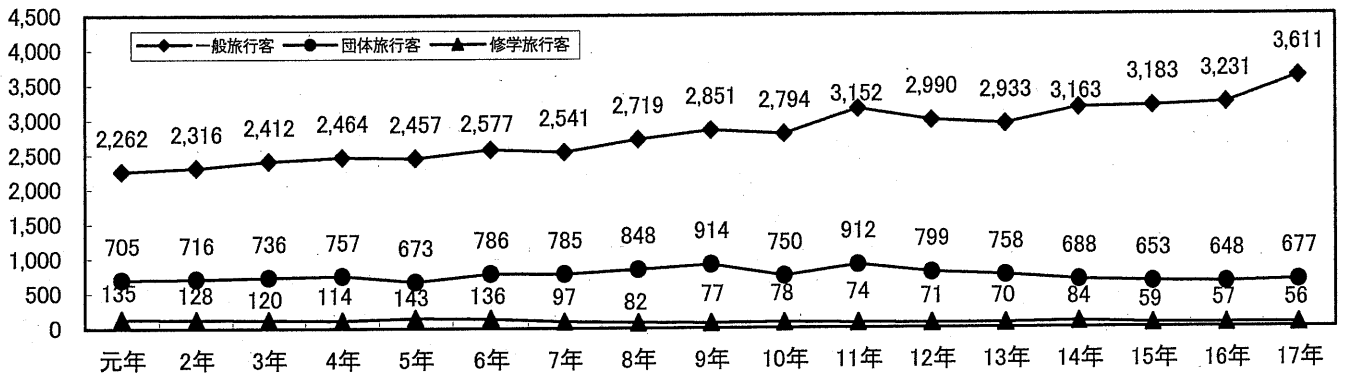
③ 一般客・団体客・修学旅行客の状況（図-13）

入込観光客を一般客，団体客，修学旅行客別にみると，前年と比べ一般客は380万人（11.8%），団体客については29万人（4.5%）増加したが，修学旅行客は1万人（△1.8%）の減少となっている。

（注）団体客：10人以上の団体旅行者

図-13 一般・団体・修学旅行別入込観光客数の推移

単位 万人

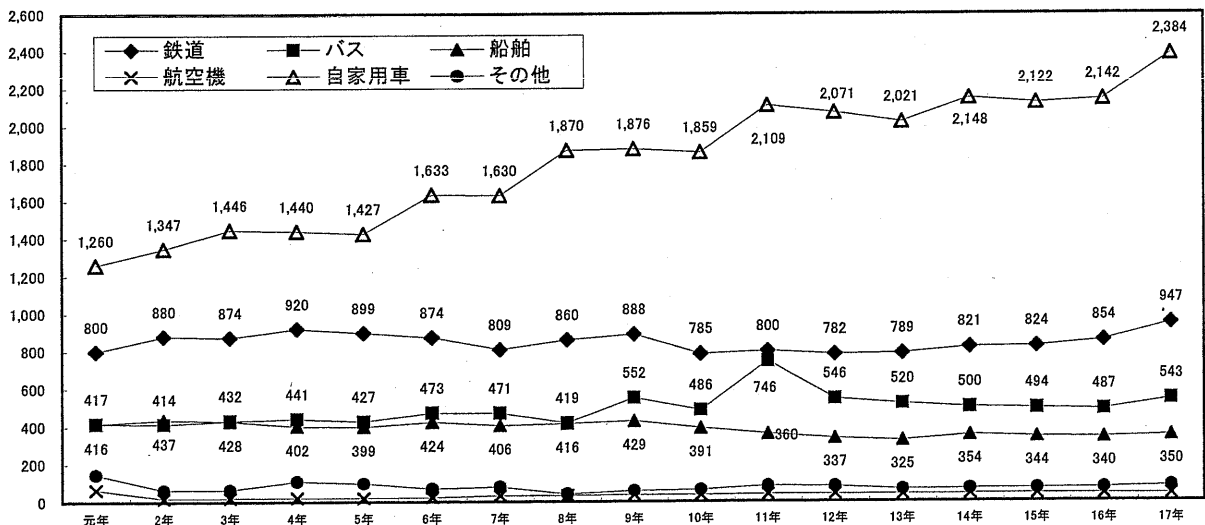


(6) 交通機関別入込観光客の状況（図-14）

入込観光客の利用交通機関をみると，自家用車を利用したいわゆる「マイカー客」が前年に比べて242万人（11.3%）増加し，2,384万人と最も多く，マイカー客は観光客全体の54.9%を占め，平成11年以降2,000万人を超えている。また，鉄道利用者については，前年に比べて93万人（10.9%），バス利用者は，前年に比べて56万人（11.5%）それぞれ増加している。

図-14 交通機関別入込観光客の推移

単位 万人

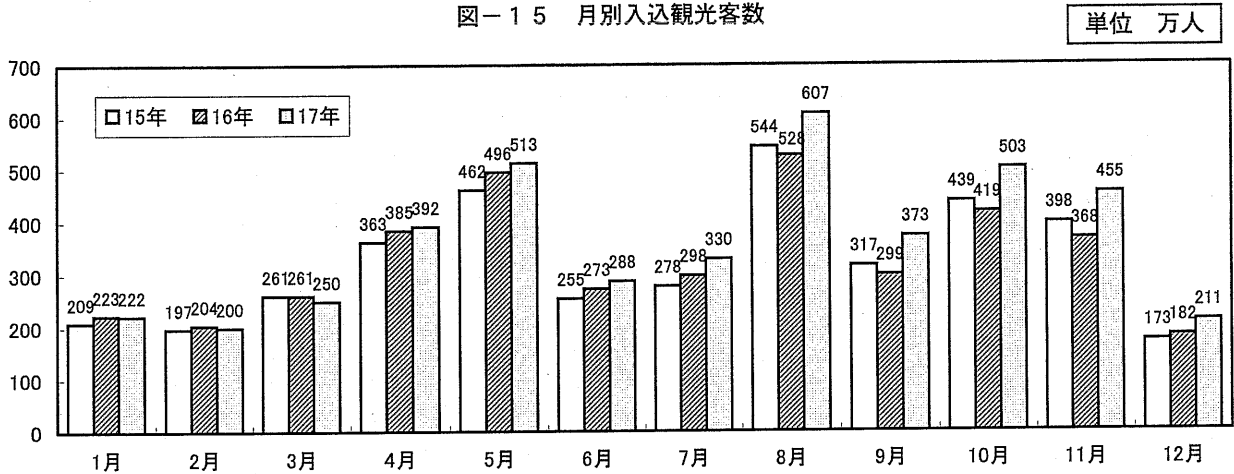


(7) 月別・季節別入込観光客の状況

① 月別入込観光客の状況 (図-15)

月別に見ると、最も観光客が多かったのは、8月の607万人、次いで5月の513万人、10月の503万人、11月の455万人となっている。

図-15 月別入込観光客数



② 地域別・季節別入込観光客の状況 (図-16)

季節別に見ると、安芸地域、芸北地域、備北地域においては、秋に観光客が最も多くなっている。また、備後地域においては海のシーズンである夏に観光客が多くなっている。

図-16 地域別・季節別入込観光客数

